

《産前産後理学療法に関する海外情報 Vol. 7》

【日本語タイトル】

妊婦における COVID-19：初期に得た教訓

【オリジナルタイトル】

Coronavirus disease 2019 in pregnancy: early lessons

【着目ポイント！】

1. 無症状だった妊婦が分娩後に COVID-19 の症状を呈することがある。
2. 分娩後の病態の急変に応じ、適切な対応が迫られる。
3. 医療従事者は感染リスクが高く、妊婦の検査未実施の場合は、感染予防策を十分に行うことが望ましい。

【要約】

本論文は米国産科婦人科学会誌 (AJOG MFM) に掲載されたケースレポートである。COVID-19 陽性が確認された周産期女性 7 人のうち、分娩時までは無症状 (COVID-19 は未診断と思われる) で産科対応となり、分娩後急変し COVID-19 と診断された 2 例を紹介している。この 2 例は分娩後に COVID-19 の症状を示し、集中治療管理となった。2 例のうち 1 例は自宅退院し、1 例は入院加療が続いており、いずれも新生児に感染は確認されなかった。2 例の経過を提示し、産科臨床において、COVID-19 による急変に、緊急対応が迫られることを示唆している。また医療従事者は COVID-19 への曝露機会の増加、個人防護具 (PPE) の不足により感染リスクが高いことも言及している。感染が確認できていない場合でも、分娩時にはマスクや PPE の着用が望ましく、院内にいる医療従事者、患者ともにマスクを着用する必要があると言及している。また立ち合い分娩の禁止などの判断も母子のみならず医療従事者の保護の強化につながることも述べている。

調査者

荒木 智子
((一社) WiTHs/大阪行岡医療大学)

情報刊行日 / 情報調査日

2020 年 3 月 27 日 / 2020 年 5 月 30 日

情報のカテゴリ

産前産後 / 医療従事者向け

情報の発信国 / 組織

アメリカ / American Journal of
Obstetrics and Gynecology (AJOG)

URL

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2589933320300410>

DOI

<https://doi.org/10.1016/j.ajogmf.2020.100>